

まほらに吹く風に乗って

<日本の美しい風景と歴史のプチディクショナリ>

地域に眠る埋もれた歴史シリーズ (24)

美和・高部・馬頭を行く



ふるさと“風”の会

まほらに吹く風に乗って
＜日本の美しい風景と歴史のプチディクショナリ＞

ふるさと風の文庫

地域に眠る埋もれた歴史シリーズ (24)
美和・高部・馬頭を行く

木村 進

ふるさと“風”の会

(1) 鷺子山上神社

鷺子と書いて「とりのこ」と読みます。

茨城県と栃木県の県境にあるためにテレビなどでもときどき紹介されています。



神社入り口の上り階段の真中に「県境」の立て看板が置かれています。茨城県側は旧美和町（現常陸大宮市）、栃木県側は旧馬頭町（現那珂川町）となっており、社務所も両県にそれぞれあります。

さてこれだけでもめずらしいのですが、ここはその他いろいろと興味をそそられる神社です。

とても古い立派な神社で、辺りはいろいろな樹木の宝庫で神社境内の杉（御神木）も千年杉と呼ばれています。

また、この神社より手前ですが美和の交差点近くの「吉田神社」には本当に立派な「三浦杉」という大木が神社拝殿の石段の両脇に聳えており、とても見事です。



神社入口の大鳥居が左右で県が違ってきます。

鷺（わし）をトリと読むことはよくあります。

「鷺」「鳥」「酉（とり）」などと名前のつくところは、阿波（徳島）忌部（いんべ）氏と関係が深いということです。

それらの神社の祭神は「天日鷺命（あめのひわしのみこと）」です。



鷲子山上神社の「楼門」です。1552年の建築でとても見事なものです。

神話では、天照大神が天岩戸に隠れてしまったために、この世は闇になった時に、天照の気を引くために岩戸の前で楽器を奏でます。

そこに一羽の鷲が飛んできてとまります。

この楽器を演奏していた人は「天日鷲命」と名付けられます。

そして、全国にたくさんある天日鷲命（あめのひめわしのみこと）を祀った「鷲神社」をワシジンジャといたりトリジンジャと言ったりしています。

そして、そのほとんどの所が産業振興の願い事をかなえてくれるというところが多いようです。「酉の市」も熊手で商売繁盛を願います。

この神社が近年「フクロウ神社」として有名になっています。

「フクロウ」は「不苦労」につながるという単純なものですが、いろいろ

なところろにフクロウの像が置かれ、階段の数も 96 段で往復して 2x96(不苦勞) だといひます。

また敷石に 6 角形の亀型を使い幸せに長寿できるようにと色々なものがあひります。



境内の手水鉢のところにある「フクロウの石像」です。水を 2 回かけて、手でフクロウの頭を良くなでてあげましよう。幸せになれるそうです。



こちらは福亀です。石畳を亀の形でかたどって幸せがやってきそうです。

神社の上に登ると、ここには樹齢 1000 年といわれる杉の木が聳えています。

神社の入口の反対側にとっても大きな金色フクロウの像があり、こちらをフクロウ神社とも言われているようですが、私はあまり新しいものには興味がなくお参りしていません。

お土産も、フクロウのかわいらしいものが多くありました。



こちらは神社拝殿につながる石段です。中間部に楼門があります。階段の数が 96 段で、往復すると 2×96 でフクロウ=不苦労です。